

Interview

全国ゴルフ場関連事業協会 (JGIA)

会長 今和泉 久生 氏



全国各地で開催の ジャパンターフショーに ぜひ一度お越し下さい

全国ゴルフ場関連事業協会（JGIA）は、ゴルフ場の運営やコース管理に必要な様々な資材や用品のメーカー、販売会社、輸入販売代理店等の全国組織として1987年に設立した、ゴルフ16団体の中の1団体だ。そんな同協会では、今年の2月15日に開催した定時総会で今和泉（いまいずみ）久生氏（日本クリントン（株）が会長に就任した。

そこで今回、新会長の今和泉氏に今後のビジョンや、同協会が主催する、ゴルフ場の芝草管理機械、管理資材を同時に観ることができ

る国内最大規模の「ジャパンターフショー」について話を聞いた。

—— 全国ゴルフ場関連事業協会の会長にご就任、おめでとうございます。今年の2月から新会長として新体制でのスタートが切られました。改めて協会の概要や目的を聞かせて下さい。

今和泉 ありがとうございます。この度、会長に就任しまして、任期は2年です。副会長はゴルフ用品（株）の河本取締役、（株）ニチノ緑化の廣瀬社長、ヤマハモーターパワープロダクツ（株）の菊池部長の3人です。管理機械、農薬、ゴルフカートから選出と、バランスが取れた人事にしました。また、今まではできていませんでしたが、これからは外部の方にも組織図をしつかり見られるように、新人事等をHPにアップしていきたいと思っています。広報的な部分に力を入れていきたいですね。とはいえ、基本的には前会長の山田社長（東洋グリーン（株））の方針を踏襲する形となります。

そしてJGIAについてですが、ゴルフ場の機材の品質、性能の向上や安全性確保に向けた調査活動、ゴルフ場関連製品の啓蒙、普及促

進として、2年に一度の『ジャパンターフショー』や講習会等を開催しています。現在114社が加盟しており、会員間の親睦を図り、情報を交換し、業界の向上を目指し、ゴルフ場及びゴルフ界の発展に寄与することを目的としています。

—— JGIAの活動内容についても教えてください。

今和泉 ご存知の方も多いでしょうが、『ジャパンターフショー』の開催がメインの活動となります。JGIA設立後、ジャパンターフショーの前身「芝草管理機・資材展示会」として、2年に一度の隔年で関東で開催していたのですが、2007年から日本芝草学会との共催による『ジャパンターフショー』として生まれ変わりました。その前年に私は実行委員長に就任したのですが、周囲の業界関係者から当協会は「単に2年に1度展示会を開催するだけの団体」という認識が殆どでした。やはり組織や団体というものは、動いていないという意味がないと考えています。そのような想いもあり、展示会が開催されない年度でも全国各地でセミナーを開催したりと能動的に

動いていくべきだと思ひ、総会や役員会で当時、実行委員長だった私が提案しました。その結果、2008年に初めて北海道(ザ・ノースCC)でターフショーを開催し、2010年には「ジャパントーフショー」名古屋芝草管理セミナー、2012年には「ジャパントーフショー」芝草管理セミナー「芝埼玉」を開催しました。さらには、2014年の「九州地区ゴルフ場用品・コース管理機材展示会」(九州ゴルフ連盟主催)と、2016年の「芝地用管理機械・資材総合展示会」(関西グリーン研究所主催)に出展し、芝草管理セミナーを開催するなど、出前式で隔年だった行事を毎年何かしらの形でアクションするようにしました。そうすることでJGIAの認知度も上がりますし、全国各地で開催することで、ターフショー開催地である、千葉県や東京都に來ることが難しい方にも足を運んでもらいやすいのでは、と思ひています。

なお、ジャパントーフショーでは、出展企業が芝生管理第一線の実務者向けである「プライベートセミナー」(有料)を開催すること

ができます。このセミナーは、2007年のターフショー(昭和記念公園)から始めましたが、おかげさまでターフショーを開催する毎に参加者が増えています。プライベートセミナー開催の経緯ですが、中小企業さんから「セミナーを自社で開催したいけど、予算が厳しい」、「大手ではないし、集客できる自信がない」といった声が増えていたという背景があります。また、年々JGIAの会員数は増加しています。やはり会員になつていただくと、より安価でターフショーに出展できる、そして出展することでプライベートセミナーにも申し込み可能なことが大きな要因として挙げられるでしょう。

—— 今後のターフショーについて、何か変化はありますか。今後の活動予定を聞かせて下さい。

今和泉 大きな変化はありませんが、今年は10年ぶりに北海道で「北海道ターフショー」を開催します。北海道のキーパーで構成されている「北海道グリーン研究会」と共催で、秋口の開催に向けて既に同研究会の敦賀会長(小樽CC)と話を進めています。10年前の前

回は、道内の7割強のキーパーに参加いただきました。今回も多数の方にお越しいただけるよう、敦賀会長や滝ヶ平、菊池両副会長ら、道内の精力的な若手のキーパーと一緒に色々考えていきたいと思っています。

—— ゴルフ場、ゴルフ団体に向けて最後に一言お願いします。

今和泉 ゴルフ業界の景気は良くないのが現状ですが、やはりゴルフ場経営はコースがあつてこそ、です。もっと若いキーパーが表舞台に出て來られる、注目されるような環境作りが大事だと思ひます。これからの業界を担う、若いコース管理スタッフがキーパーを指すきっかけとなつたり、コース管理の現場の問題点をクローズアップしたセミナーを実行委員会が一体となつて考えていきたいと思ひています。コース管理関係者だけでなく、ゴルフ場の社長や支配人にも来ていただきたいですね。

最後になりますが、ジャパントーフショーの実行委員の皆さんが動きやすいよう、JGIAから委員たちが所属する各企業に委嘱状を出すことに決めました。これからも出やすい、動きやすい環境作

りに注力していこうと考えています。—— 本日はありがとうございます。



展示会場もプライベートセミナーも充実していた「2017ジャパントーフショー」